

H A G I

萩

題字は吉田松陰筆跡

SPRING ISSUE 2018

87



左上から
東洲斎写楽「初代大谷徳次の奴袖助」大判錦絵 寛政6年(1794)
喜多川歌麿「歌撰恋之部 物思恋」大判錦絵 寛政5~6年(1793~94)頃
歌川国政「二代目中村仲蔵の松王丸」大判錦絵 寛政8年(1796)
春好斎北洲「三代目中村歌右衛門の加藤正清」大判錦絵 文政3年(1820)
勝川春章「坂東三津五郎」間判錦絵 安永9年~天明元年(1780~81)頃
三代歌川豊国(歌川国貞)「市川海老蔵 武蔵坊弁慶 寿海老人白猿」大判錦絵 万延元年(1860)
すべて部分 リー・ダークスコレクション © Lee E. Dirks Collection

<休館のお知らせ>
山口県立萩美術館・浦上記念館は、
改修工事の為、平成30年11月26日から
平成31年3月31日(予定)まで休館します。

HAGI URAGAMI MUSEUM

サンタフェ リー・ダークスコレクション 浮世絵最強列伝—江戸の名品勢ぞろい—

綺羅星の如く並ぶ浮世絵の名品

岩切友里子（浮世絵研究家）

菱川師宣に始まる江戸の浮世絵版画は、その後2世紀にわたって、多様な様式を生み出し、木版画として最高の技術に達した。近代に入って、浮世絵は世界に誇る日本文化の代表的なものとなり、海外には多くのコレクションが形成された。アメリカのリー・ダークス氏も、浮世絵版画に魅せられた一人で、2000年代初めから浮世絵の蒐集を始めたということで、新しく形成されたコレクションの初公開ということになる。氏のコレクションは、浮世絵の初期から幕末まで、代表的な絵師の作品を網羅しているばかりでなく、非常に珍しい作品、すばらしい保存状態の作品、貴重な摺りの早い作品を多く含んでおり、まさに第一級の個人コレクションといえよう。また、美人画・役者絵・名所絵・花鳥画・摺物と幅広いジャンルの名品が集められていることにも目を見張らされる。

今回の展示品から、いくつかを紹介してみたい。



図1 春重（司馬江漢） 禿の雪まろげ

錦絵と呼ばれる多色摺の美しい版画が現われた明和2年（1765）以降、最も活躍した絵師は鈴木春信である。その華奢でたおやかな美人画様式は瞬く間に時代を席卷し、他絵師もこぞって春信様式に追随した。リー・ダークスコレクションには、美しい春信作品の数々も収蔵されている。春信は明和7年（1770）6月に急逝した。その後まもなく出版されたのが本作で、「春信画」と署されているが、落款の形態の違い、背景の強調された遠近法による描写などから、司馬江漢の作と考えられている。後に、江漢自ら、文化8年（1811）の随筆『春波楼筆記』の中で、春信の偽物を描いたと告白している。当時の春信の絶大な人気を示す作であるとともに、一般に洋画家として知られる司馬江漢の、20代の若書き作品としても注目される稀観品である。

図2 喜多川歌麿
歌撰恋之部 物思恋

浮世絵版画の摺りの技法のひとつである「雲母摺」は、雲母や貝の粉を用いて、画面にきらきら光る効果を出すものである。役者絵では東洲斎写楽の作品がよく知られているが、歌麿の美人画に雲母摺を用いた版元も同じ葛屋重三郎であった。

本図のように下地に紅を使った雲母摺は「紅雲母」と称され、ピンクの真珠を思わせる輝きが、美人大首絵の地として非常に効果的である。「歌撰恋之部」は全5図が知られているが、中でも「物思恋」は眉を剃った既婚女性が頬杖をついて宙を見つめる表情に、女性の深遠な心の有様までが感じられるような傑作で、歌麿の全作品中でも屈指の名品であるが、伝存数は少ない。



図3 歌川国政 二代目中村仲蔵の松王丸

国政は歌川豊国の門人で、ことに役者大首絵の評価が高い。本図は、寛政8年（1796）7月都座「菅原伝授手習鑑」で、二代目中村仲蔵が演じる松王丸である。白張を着し、烏帽子を被ったいでたちで、麻袋に入れた参内傘を抱える姿から、「車引」の段の松王丸とわかる。この後、松王丸は、彼が仕えている藤原時平を襲おうとする二人の兄弟梅王丸・桜丸と争うことになるが、本図ではその直前の松王丸に内包された大きな気迫が見事に描出されている。

版元の上村与兵衛は、寛政7～8年（1795～96）に、描線に薄墨と墨の2種の版を用い、眼の隅に藍を施すなどの入念な様式で、豊国・国政の一連の役者大首絵を出版しており、作品の格調の高さは版元の出版にかけた格別の意欲にあずかるどころも大きかったものと思われる。



図4 溪斎英泉
新春の辰巳芸者たち

浮世絵版画には、一般の売品とは異なり、私的に註文して制作し、仲間内での配り物とした非売品の摺物という種類の作品がある。文化・文政期には、上質な紙に、金銀摺など贅を凝らした精緻な狂歌摺物が多く作られている。

本作は色紙判二枚続で、新春の辰巳（深川）芸者たちを描き、梅の香の漂うしっとりとした夜の情調が表されている。

画中には「江戸の花也」「柳桜亭花也」の狂歌があるが、二つとも長州藩11代藩主毛利斉元の狂歌名であったことが津田真弓氏の研究によって明らかにされている。斉元は寛政6年（1794）に萩で生まれ、文政7年（1824）に藩主となったが、天保7年（1836）、病によって43歳の生涯を閉じた。狂歌活動に熱心であった斉元は江戸で多くの摺物を制作している。本館での展示は、アメリカから萩へとまさに里帰りとなる。

歌川広重の優品も多く、「木曾海道六拾九次之内」の内「雨の中津川」と称される稀観品、「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」の初摺なども含まれている。その他、注目すべき作品は枚挙にいとまなく、こうした名品が個人コレクションとして一堂に鑑賞できることは実に驚くべきことである。

本展監修者である永田生慈氏は、2018年2月6日に急逝された。氏が長きにわたり北斎研究に捧げたご活動はつとに知られているところであるが、氏はまた、数多くの海外の美術館やコレクションの浮世絵展の開催にご尽力された。リー・ダークスコレクション展の開催も、氏のご熱意によって実現されたものである。感謝を捧げるとともに、ご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

山東から発見されたやきものたち

柿添康平（当館学芸員）

山東省は黄河下流域に位置し、新石器時代には大汶口文化・龍山文化といった高度な文化が発達しました。春秋・戦国時代には齊国・魯国が興り、孔子や孟子ら日本にも大きな影響を与えた思想家を輩出するなど、その豊かさが窺えます。

人々がより豊かに生活するためには、道具の利用が不可欠となります。その中でもやきものは、中国では諸説ありますが約18000年前から作られ始め、食物や水の貯蔵・煮沸によって、人々の生活水準を大きく引き上げました。また、墓葬への副葬品としての埋納も行われており、現代に至るまで様々な用途で活用されています。

古くから栄えた山東省では、どのようなやきものが作られ、また遠方からもたらされたのか、本展の出品作品を紹介しつつ特徴的なものに触れていきたいと思えます。

山東省で作られたやきものの中で、代表的なもののひとつとして白陶があります。白陶は、素材となる胎土にカオリン土を利用し、器面も薄く作り上げたやきものです。大汶口文化を代表する大汶口遺跡の発掘調査から、専門工人

による工房での作陶や、横穴式の窯を利用した高火度・長時間の焼成技術が成立していたことが明らかになっています。そういった工房で作られたのが図1の白陶で、今日に見ても造形力・技術力ともに素晴らしい作品です。鬻は酒器で、三本の足の間から火をくべ温めた酒を供すために使用されていたと推測されています。

この他、大汶口文化では器面に鮮やかな文様を描いた彩陶や器面を薄く成形した黒陶が作られ、やきものを装飾しより美しく見せようとする指向が、この時期すでに芽生えていたことがわかります。

その他、山東省で作られた特長的なやきものとしては、北宋時代から当地で作られ始めた磁州窯系のやきものが挙げられます。磁州窯系は、河北省磁県の窯からその名称が取られており、広く河北省・河南省・山西省・安徽省などに拡がり、山東省もそのひとつに数えられます。山東省では淄博市などにおいて、磁州窯系の生産が行われたことが複数の窯址の発掘から明らかになっていて、窯の構造も新石器時代に比べると発展し、ドーム状の饅頭窯と呼ばれる

窯が構築されました。磁州窯系は白土で化粧掛けを施すのが特徴で、装飾の種類も数多く色釉・鉄絵や図2のような彫刻が施されています。時代を経て作り方や形に変化はありますが、綺麗なやきものを作り出すことへの努力が変わらずあったようです。

山東省は地域のみで生業すべてが完結していたわけではなく、人やモノの交流が盛んに行われ、交流の中で、他地域のやきものが多く山東省に持ち込まれました。唐時代の唐三彩はそのひとつです。

唐三彩は唐時代に副葬用に流行したやきもので、山東省では窯址が確認されておらず、河南省・陝西省・山西省などの窯から、山東省へもたらされたと考えられます。図3の三彩盤もそのひとつで、色鮮やかな色釉は鉛釉に呈色剤として鉍物を混ぜることで発色させています（黄：鉄、緑：銅、藍：コバルト）。800~900度の比較的低い焼成温度で焼かれました。

もうひとつ、山東省に流通したやきものとして注目したい

のが、明清時代に江西省景德鎮窯から流通した磁器です。真っ白な白磁と、その上に描かれた青花・五彩などの美しい文様は人々を魅了し、高品質な磁器は河川などを通じて中国国内に流通したほか、世界的にも日本をはじめとした東アジアや、遠くヨーロッパまで伝わっています。受容した階層も作品の品質と同様に高く、図4のように王族の墓への埋葬例が知られています。白く美しい磁器は大変魅力的だったようで、山東省では明清時代以降、これらを模した軟質磁器が作られるようになりました。

山東省では、地域内での生産と地域外からの流通によって多種多様なやきものが利用されてきたことがわかります。本稿では紙面の関係上、中国のやきものの永い歴史のなかのほんの一部しか紹介できませんでした。本展では今回紹介した作品以外にも、多くの多彩なやきものを展示する予定です。是非展覧会にお越しいただき、山東のやきものの悠久の歴史に触れていただければ幸いです。

※作品はいずれも山東博物館蔵



図1 白陶鬻 新石器時代・大汶口文化 一級文物 泰安大汶口遺跡出土



図2 白釉搔落花卉文梅瓶 宋時代 三級文物



図3 三彩盤 唐時代 一級文物 濟南東関工業学校出土



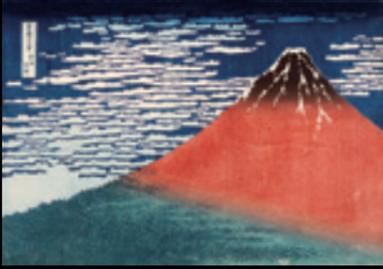
図4 五彩鴛鴦蓮花文盤 明時代・弘治年間 一級文物 兗州巨野王墓出土

浮世絵 最強列伝

サンタフェ リー・ダークス コレクション

Popular Impressions: Japanese Prints from the Lee E. Dirks Collection

4月28日(土) 5月27日(日)



会期中展示替えがあります
 前期 4月28日(土)～5月13日(日)
 後期 5月15日(火)～5月27日(日)
 休館日 5月14日(月)
 開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)
 ●金曜日は19:00まで開館(入場は18:30まで)
 観覧料 一般1,000(800)円/70歳以上の方・学生800(600)円
 ※()内は前売りおよび20名以上の団体料金。※18歳以下の方および高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示者とその介護者1名は無料。※前売券はローソンチケット(Lコード61634)セブンチケットでお求めになれます。

展覧会情報サイト <http://www.nikkei-events.jp/art/ukiyo>
 主催 リー・ダークス展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館 毎日新聞社、tys テレビ山口)、日本経済新聞社
 後援 米国大使館、山口県教育委員会、萩市
 協力 日本航空
 特別協力 エフエム山口

リー・ダークス氏(米国、1935年生まれ)の浮世絵コレクションをまとめてご紹介する、はじめての展覧会です。米国の大手新聞社で記者として活躍し、その後は同業界で企業経営に携わってきたダークス氏。20代の頃、米空軍大尉として日本に駐留したことをきっかけに日本美術に関心をもち、後に、とりわけ感銘を受けたという浮世絵版画の収集をはじめます。情熱と愛情を注いで育て上げられたリー・ダークスコレクションは、誰もが知る名品あり、浮世絵ファンを唸らせる珍しい名品あり、まさに「最強」のメンバー揃いです。またその中には、摺った当初の美しい色彩を残した作品も多く含まれ、優れたコレクションと評価されています。コレクションが網羅する、浮世絵版画の初期から幕末までの代表的な絵師による作品で、見ごたえたっぷりの浮世絵の世界をお楽しみください。

イベントのご案内

① 記念講演会
 「リー・ダークス浮世絵コレクション展のみどころ 一風景画を中心に」
 ※聴講無料・申込不要
 講師 大久保純一氏(国立歴史民俗博物館研究部 教授)
 日時 4月28日(土) 13:30～15:00(開場13:00)
 会場 本館講座室(84席)

② 〈ワークショップ〉緑茶を知って、美味しく楽しむ。
 1時間目「美味しい緑茶、キホンのキ」
 2時間目「緑茶は、紅茶の代わり!? アメリカでは、2度目の緑茶ブームが!」
 緑茶を飲みながら、楽しく学びます。
 講師 吉光虹太氏(日本茶専門店八十八店主、日本茶インストラクター)
 日時 5月2日(水) 14:00～16:00
 会場 陶芸館多目的室
 対象 小学生以上(ただし小学生の方は保護者同伴をお願いします)
 参加費 500円(要観覧券、当日分でなくても可)
 定員 16名

③ 〈ワークショップ〉広がる「紙」の世界。
 身近にありながら、意外と知らない「紙」が主役のワークショップ。
 日本と西洋の紙の違いから生まれる表現の違いについて、墨流しとマーブリングを例にレクチャーで学びます。最後は、それぞれの技法のデモンストレーション&墨流しとマーブリングを使って装飾紙作りを体験!!
 講師 小高良作氏(手漉和紙染色造形作家)
 日時 5月12日(土) 14:00～16:00
 会場 陶芸館多目的室
 対象 小学生以上(ただし小学生の方は保護者同伴をお願いします)
 参加費 2,000円(観覧券が付きます)
 定員 10名

④ ギャラリー・ツアー ※要観覧券・申込不要
 毎週日曜 11:00～12:00
 会場 本館2階展示室

申込み方法
 事前申込が必要です。
 電話(0838-24-2400)にて以下をお伝えください。
 ・ご希望のワークショップ名
 ・参加希望者の氏名・年齢
 ・代表者様の住所および日中に連絡がとれる電話番号



1.葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」横大判錦絵 天保2年(1831)頃
 2.葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」横大判錦絵 天保2年(1831)頃
 3.歌川広重「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」横大判錦絵 天保7年(1836)頃
 4.鈴木春信「お百度参り」(部分)中判錦絵 明和2年(1765) すべてリー・ダークスコレクション © Lee E. Dirks Collection

6月5日(水)～7月16日(月・祝)

休館日 6月18日(月)、7月9日(月)
 開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)
 毎週金曜日は9:00～19:00(入場は18:30まで)
 観覧料 一般1,000(800)円 70歳以上の方・学生800(600)円
 ※()内は前売りおよび20名以上の団体料金。なお、18歳以下の方および高等学校、中等教育学校、特別支援学校の生徒は無料
 ※身体障害者手帳、療育手帳、戦傷病者手帳、精神障害者保健福祉手帳をご提示の方とその介護者(1名)は無料。
 ※前売券は、ローソンチケット(Lコード61359)、セブンチケットで販売しています。
 主催 山東のやきものを楽しむ展実行委員会
 (山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)、山東省文物局
 後援 山口県教育委員会、萩市、山口県国際交流協会、山口県日中友好協会
 協力 山東博物館、エフエム山口



白地黒花鳳凰紋壺
元時代
二級文物



青花八宝文双耳扁壺
清時代・乾隆年間
三級文物



緑釉人物俑
東漢時代
二級文物
※作品はすべて山東博物館蔵

山東の やきもの を楽しむ

山口県・山東省友好協定締結35周年記念

山口県と山東省は、1982年の友好協定の締結以来、様々な分野での交流を深め2017年で締結より35周年を迎えました。これを記念して、山東ゆかりのやきものを紹介する「山東のやきものを楽しむ」展を開催いたします。黄河下流域に位置する山東省では、新石器時代より大汶口文化・龍山文化に代表される高度な社会を形成し、手工業が発達してきました。やきものはそれらの中でも人々の生活や精神性と深く結びついた代表的なものと言えます。山東省では新石器時代の彩陶・白陶・黒陶に始まり、その後も隋唐代の青磁や黒釉陶、北宋、金元代の磁州窯系陶器、明清時代から現代まで続く青花や五彩など、永きにわたりやきもの作りが続けられてきました。本展では、山東省で作られたやきものに加え、景徳鎮窯など他方の窯から流通したやきものや、今も活躍する現代作家の陶芸作品について紹介します。展覧会を通じて、山東のやきものを存分にお楽しみください。

Fantastic Shandong pottery

関連イベント

① 記念講座《悠久の山東陶磁》
 ※聴講無料・申込不要
 講師 柿添康平(当館学芸員)
 日時 6月10日(日) 13:30～15:00(開場13:00)
 会場 本館講座室(84席)

② 中国茶と楽しく触れ合う ※要事前申込
 講師 武谷哲宏氏(武谷清風堂)
 日時 6月24日(日)、7月8日(日)
 いずれも14:00～15:30
 参加費 1,000円
 定員 各回20名(申込先着順。小学生以上対象、小学生は保護者同伴)
 会場 陶芸館多目的室

③ 手びねり作陶体験 ※要事前申込
 講師 渋谷英一氏(陶芸家)
 日時 6月30日(土)
 ①10:00～11:30、②13:30～15:00
 参加費 1,000円
 定員 各回16名(申込先着順。小学生以上対象、小学生は保護者同伴)
 会場 陶芸館多目的室

※②、③、④の申込方法について、A 参加希望者全員の氏名・年齢、B 代表者の住所と日中に連絡が取れる電話番号、C 参加回をTEL(0838-24-2400)にて、各参加イベントの係までお申し込みください。

④ タッチ&トーク ※要事前申込
 担当学芸員による作品解説&本展に関する作品(館蔵品。出展作品ではありません)を直接触れてご鑑賞いただけます。
 日時 6月16日(土)、7月7日(土)
 ①10:00～11:00、②14:00～15:00 計4回
 参加費 2,000円(展覧会をご覧いただけます)
 定員 各回10名(申し込み先着順)
 会場 本館講座室・本館2階展示室

⑤ 二胡コンサート
 ※参加無料・申込不要
 出演 王丹氏(王丹二胡アカデミー主宰) ほか
 日時 6月23日(土) 14:00から50分程度
 定員 約100名
 会場 エントランスロビー

⑥ ギャラリー・ツアー (担当学芸員による展示品解説)
 ※要観覧券・申込不要
 日時 6月17日(日)、7月1日(日)、7月15日(日)
 11:00～12:00
 会場 本館2階展示室

Sèvres

CITÉ DE LA CÉRAMIQUE



ポブリ壺「エペール」
1757年
セーヴル陶磁都市所蔵
Photo (C) RMN-Grand Palais
(Sèvres, Cité de la céramique) /
Martine Beck-Coppola /
distributed by AMF

フランス宮廷の磁器 セーヴル、 創造の300年

*Sèvres : 300 Creative Years
Porcelain for the French Court*

7月24日火～9月24日月・振休

休館日 8月6日(木)、8月20日(木)、9月10日(木)

開館時間 9:00～17:00(入場は16:30まで)

会期中、毎週金曜日と8月2日(木)は19:00まで開館
(入場は18:30まで)

観覧料	一般1,200(1,000)円、70歳以上・学生1,000(800)円 ※()は前売りおよび20名以上の団体料金。18歳以下と高等学校・中等教育学校・特別支援学校の生徒は無料。※身体障害者手帳、戦傷病者手帳、精神障害者手帳をご呈示の方とその介護者(1名)は無料。※前売券は、ローンチケット、セブンチケットで販売しています。※割引券は、県内各プレイガイド、道の駅、旅館等観光施設において設置しています。
主催	セーヴル展実行委員会(山口県立萩美術館・浦上記念館、読売新聞社、KRY山口放送)
企画	セーヴル陶磁都市
後援	フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本、日本紅茶協会、山口県教育委員会、萩市
協賛	大日本印刷
協力	日本航空、日本通運



18世紀のヨーロッパにおいて磁器への憧れは極まりをみせ、フランスでは国王ルイ15世の庇護の下、パリ近郊のセーヴルに王立磁器製作所が生まれます。以後、優雅で気品溢れるセーヴル磁器は、ボンパドゥール侯爵夫人や王妃マリー・アントワネットといったフランスの宮廷人たちをはじめヨーロッパの王侯貴族たちを魅了し、現在まで常にその高い技術と芸術性を保持し続けてきました。本展では、そうした300年に及ぶセーヴル磁器の創造の歴史を、セーヴル陶磁都市所蔵の名品によりご紹介いたします。

イベントのご案内

- ①記念講演会「華麗なるセーヴル磁器の歴史とその魅力」
※聴講無料・申込不要
講師：櫻庭美咲氏(神田外語大学専任講師)
日時：7月28日(土) 13:30～15:00
会場：本館講座室(84席)
 - ②セーヴル磁器で楽しむティー・セミナー
アンティークのセーヴル磁器ティーセットで紅茶を楽しみながら、セーヴル磁器の奥深い魅力とフランスにおける知られざる紅茶文化を学びます。
講師：塩谷哲夫氏(ロムドシン代表取締役)
坂本三佳氏(日本紅茶協会シニアティーインストラクター)
日時：8月18日(土) 14:00～16:00
参加費：4,000円(要申込。観覧料も含まれます。)
定員：16名(小学生以下は保護者同伴。申し込み先着順。)
会場：陶芸館多目的室
 - ③ワークショップ「切り絵の絵付け～転写シート活用術」
カラフルな転写紙を使って、オリジナルデザインの上絵付けを楽しめます。
講師：担当学芸員
日時：8月4日(土) ①10:00～12:00、②13:00～15:00
参加費：1,000円(要申込)
定員：各回16名(小学生以下は保護者同伴。申し込み先着順。)
会場：陶芸館多目的室
 - ④ギャラリー・ツアー(担当学芸員による展示品解説)
※要観覧券・申込不要
日時：7月29日(日)・8月5日(日)・8月12日(日)・8月19日(日)
8月26日(日)・9月2日(日)・9月9日(日)・9月16日(日)
9月23日(日) 11:00～12:00
会場：本館2階展示室
- ※上記の各セミナー、ワークショップの申し込み方法や申し込み期間については、後日HP等でお知らせいたします。



カップとソーサー「リトロン」1795年
セーヴル陶磁都市所蔵
Photo (C) RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) /
Adrien Didierjean / distributed by AMF



「ペールと薄手のコーヒーセット」ノルマンディーの風景」1855年
セーヴル陶磁都市所蔵
Photo (C) RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) /
Martine Beck-Coppola / distributed by AMF



デザート皿(貝)「自然の産物のセルヴィス」より
1835年
セーヴル陶磁都市所蔵
Photo (C) RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) /
Martine Beck-Coppola / distributed by AMF



ダンサーNo.13(テールヴルセンターピース「スカーフダンス」より)1899-1900年
セーヴル陶磁都市所蔵
Photo (C) RMN-Grand Palais (Sèvres, Cité de la céramique) /
Martine Beck-Coppola / distributed by AMF

普通展示

浮世絵

明治150年 浮世絵に見る幕末明治

- ① 幕末の混乱と世相 4月28日(土)～5月27日(日)
- ② 明治の内乱 6月5日(火)～7月8日(日)

明治150年を記念して、年間を通して幕末明治の浮世絵版画を紹介する全6回のシリーズです。嘉永6年(1853)6月、アメリカ東インド艦隊司令長官ペリーがもたらした開国を求める国書を受け、幕府は安政5年(1858)に5ヶ国条約に調印し、鎖国を解きました。しかし開国の論議を機に生じた政争は対立が深まり、戊申戦争を経て幕府は崩壊します。新政府は、慶応3年(1867)に王政復古の大号令を宣言し、翌年、江戸を東京と改称。明治と改元し、天皇の東幸によって東京奠都(京都と同じように都と定めること。)を行いました。

シリーズ第1回は「幕末の混乱と世相」をテーマに、開港後に新文化の流入をみた横浜の西洋人やその風俗、あるいは新しい西洋事物を描いた横浜絵、そして万延元年(1860)の桜田門外の変から慶応元年(1865)の第2次征長の役までの政局を描いた浮世絵をご紹介します。次第に激化する尊皇攘夷派と衰退する幕府の情勢をご覧ください。

第2回は「明治の内乱」をテーマに、新政府軍と旧幕府勢力との間で起きた戊辰戦争、そして新政府の士族解体に抵抗する旧士族による反乱のうち、明治9年(1876)に山口県でおきた萩の乱、翌10年(1877)の西南戦争を描いた作品をご覧ください。

そのほか幕府の出版統制をはばかり、当時の社会情勢や事件を史実になぞらえて描いた作品や、戊辰戦争における幕府と新勢力の対立を子供の遊ぶ情景に重ねた諷刺絵をご紹介します。

*本展示は、萩博物館との連携による企画です。



うたがわだてで
歌川貞秀
いかりすじんよこはまにおりものいろをけるこうえきのす
英吉利人横濱織物分色交易之図
大判錦絵 文久元年(1861)



つきおかしし
めいじてんのうごとうこちよだじょうごにゆうじょうのす
月岡芳年 明治天皇御東幸千代田城御入場之図 大判錦絵3枚続 明治元年(1868)



とうしゅうちかのぶ
かごしまついでとうのす
揚州周延 鹿兒島追討之図 大判錦絵3枚続 明治10年(1877)

東洋陶磁

白を表現する

6月5日(火)～8月19日(日)

やきものの製作では、白さは意図して作ることが多いです。たとえば、原料となる土に含まれる鉄分の量が多いと、焼成環境によって青味、あるいは赤味を帯びたものになるため、白くするには呈色成分を素地から除去する技術が必要です。

白いやきものの歴史は古く、中国・新石器時代の大汶口文化では、主に赤い紅陶や灰色の灰陶が作られるなかで、白い白陶が作られました。また、時代が進み、6世紀には白磁が作られはじめます。白磁は、白い磁器の素地に透明の釉薬をかけて作られるもので、生産地や時代によって黄味を帯びた白、または青味を帯びた白と、同じ白でも微妙な違いを見せます。

白を表現することに、一体どのような意味があるのでしょうか。白色の微妙な違いに注目して、その魅力をご紹介します。



はくじゆうがいしゅうこ
白磁有蓋小壺 北宋時代・11～12世紀 蓋付総高7.9cm



十五代樂吉左衛門《黒茶碗 銘 林華》
1987年 口径13.5×12.0 cm

栗木達介《黒釉銀彩文盃》
1992年 口径12.4 cm

陶芸2

現代の茶陶 — 松下寛コレクション

Contemporary ceramics for the Tea ceremony
From Mr. Matsushita Hiroshi ceramics collection

6月5日(火)～9月9日(日)
会場:陶芸館2階展示室



故 松下寛氏 略歴

昭和6年(1931)山口県防府市生まれ。九州工業大学工業化学科卒業後、京都大学大学院に進み、同大学院にて工学博士号を取得。昭和34年(1959)京都の堀場製作所に入社。その後、同所を退社し、昭和40年(1965)中部工業大学(現中部大学)教授に就任。昭和43年(1968)より松下産業株式会社社長に就任し、以後、研究者と実業家を兼ねながら、京都大学原子エネルギー研究所客員教授、松下産業株式会社取締役会長、中部大学名誉教授を歴任。そうした多忙な研究と事業の傍ら、独自の審美眼で茶陶を中心とした近現代の陶芸や工芸作品を収集し、平成28年(2016)に85歳で他界。



川喜田半泥子《茶碗 銘 千歳の松》
1950年 口径15.5 cm



岡部嶺男《絵志野茶碗》
1978年頃 口径13.7 cm



加守田章二《茶碗》
1974年 口径13.0 cm



加藤唐九郎《赤志野茶盃》
1962-79年頃 口径12.2 cm



岡部嶺男《窯変米色瓷盃》
1978-81年頃 口径15.5 cm



加守田章二《茶碗》
1976年 口径12.2 cm



鈴木藏《志埜茶碗》
1991年 口径12.7×11.0 cm



鯉江良二《化粧手茶盃》
1989年 口径14.0×13.2 cm

日本のやきものの歴史の上で、桃山時代に侘び茶を極めた千利休(1522-91)が創意した茶陶は、それ以後の土に向き合い作陶を行なう者たちにかつてない創造の場を与えました。そして桃山時代の長次郎(生年不詳-1589)が造りだした樂茶碗が「今焼」と呼ばれたように、常に茶陶はその時生きたやきものの作り手たちの「今」の想いをかたちにしてきました。とりわけ茶碗は、他の茶陶にはない特別な感興を見る者に抱かしめ、現代まで続く作り手たちにとって常に過去の伝統的な茶碗に向き合わせ、彼らがそれぞれの「今」を生きる中で自身の個性を色濃く表現することができた茶の湯の器でした。

今回は、当館に茶陶を中心とした近現代の陶芸作品をご寄贈いただいた松下寛氏(1931-2016)のコレクションから、そうした個性あふれる茶碗を中心に展覧し、作家たちがそれぞれの「今」と向き合い、その独自の造形を表出した現代の茶陶の姿を紹介します。



隠崎隆一《黒埜》
2009年 口径13.8×10.8 cm



十五代樂吉左衛門《茶入》
1989年 総高10.5 cm



岡部嶺男《古瀬戸水指》
1973年 総高17.5 cm

美術館 インフォメーション

山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館
平成30年度県立美術館
メンバーズクラブ

更にお得になりました!



山口市と萩市にある2つの県立美術館（山口県立美術館／山口県立萩美術館・浦上記念館）では、
展覧会等を通じて美術に広く親しんでいただき、地域文化の向上に寄与することを目的として、平成26年(2014)4月に
「県立美術館メンバーズクラブ」を設立しました。
5年目となる平成30年度はさらにお得な内容になって会員募集中です。(受付期間7月31日(火)まで)
入会したその日からすぐにご利用いただけます。皆様のご入会をお待ちしています。

会員特典

◆展覧会観覧が5回まで無料!!

※お好きな展覧会を5回まで無料、6回目以降は半額でご覧いただけます。
さらに、普通展示(コレクション展)は何回でも無料でご覧いただけます。

- ◆ 展覧会オープニングセレモニーへご招待! (抽選で10名様限定)
 - ◆ 開催中の展覧会図録を特別価格で購入できます!
 - ◆ 2館の展覧会、イベント情報などをご自宅にお届けします!
 - ◆ カフェでのお得な割引・特典をご用意しています!
 - ◆ 会員限定のイベントに参加できます!
 - ◆ 協賛店でお得な割引・特典を受けることができます!
- 詳しくは2館のホームページ、メンバーズクラブ募集チラシをご覧ください。

好評受付中!
7月31日(火)まで

年会費

- 一般会員..... 2,500円
- 学生会員..... 2,000円
(19歳以上の方)
- シニア会員..... 1,600円
(70歳以上の方)

※学生・教職員の方はキャンパスメンバーズもご利用いただけます。
(ただし、加盟校の方が対象です。加盟校、内容は2館のホームページで
ご確認ください。)

有効期間

平成30年(2018)4月1日(日)～
平成31年(2019)3月31日(日)

※対象の企画展は、「企画展(特別展示)スケジュール」(下段)をご覧ください。

企画展(特別展示)スケジュール

山口県立美術館

- 浦沢直樹展 描いて描いて描きまくる—山口の巻—
4月20日(金)～6月17日(日)
- 明治150年記念特別展
激動の幕末長州藩主 毛利敬親
7月13日(金)～8月26日(日)
- 驚異の超絶技巧!
明治工芸から現代アートへ
9月7日(金)～10月21日(日)
- 没後400年 雲谷等類
11月1日(木)～12月9日(日)
- 扇の国、日本
平成31年(2019)3月20日(水)～5月6日(月・振休)

山口県立萩美術館・浦上記念館

- サンタフェリー・ダークスコレクション
浮世絵最強列伝～江戸の名品勢ぞろい～
4月28日(土)～5月27日(日)
- 山口県・山東省友好協定締結35周年記念
山東のやきものを楽しむ
6月5日(火)～7月16日(月・祝)
- フランス宮廷の磁器
セーヴル、創造の300年
7月24日(火)～9月24日(月・振休)
- 彫金のわざと美 山本晃の詩想と造形
10月2日(火)～11月25日(日)

2館共通でご利用いただけます。お申込みはお近くの美術館へ。



山口県立美術館
〒753-0089 山口市亀山町3-1
Tel 083-925-7788
Fax 083-925-7790
http://www.yma-web.jp/



山口県立萩美術館・浦上記念館
〒758-0074 萩市平安古町586-1
Tel 0838-24-2400
Fax 0838-24-2401
http://www.hum.pref.yamaguchi.lg.jp/

Special Selection

特選鑑賞室

特選鑑賞室は収蔵する浮世絵版画のなかから名品1点を展示し、じっくりと鑑賞していただくコーナーです。
平成30年度は以下の8点をご覧ください。

2018年 4月



うたがわとよくに
歌川豊国
しよだいまつもとよきぶらう
初代松本米三郎
大判錦絵 寛政11年(1799)頃

女形歌舞伎役者を描いた作品です。演目や役名は明らかではありませんが、ほっそりとした輪郭と涼しげな目元から、初代松本米三郎が描かれていると考えられます。鬢や髻が画面から勢いよくはみ出し、米三郎の顔が近接するような印象の作品です。

5月



かつしかほくさい
葛飾北斎
ふうりゅう
風流無くてな、くせ 遠眼鏡
大判錦絵 享和期(1801～1804)頃

「無くて七癖」はどんな癖のない人でも7つくらいは癖がある、人には多かれ少なかれ癖があるという意味の諺です。女性の癖を描いた全7図のシリーズと考えられていますが、「ほおずき」と「遠眼鏡」の2作のみが知られます。女性が遠眼鏡を覗く姿から、見物して遊び歩くのが好きな物見遊山癖とされています。

同作品が出品されます。北斎の浮世絵版画としては珍しい、美人大首絵が描かれます。この機会にぜひご覧ください。
※展示会場は異なります。

6月



ちうぶんさいえいし
鳥文斎栄之
せいりゆう びじんろっかせん しづたまやしずか
青楼美人六花仙 静玉屋志津加
大判錦絵 寛政5～6年(1793～1794)頃

栄之の代表作として知られるシリーズの一作です。六歌仙を振って六花仙とし、吉原の遊女たちを花に擬えて描いています。志津加は、遊女屋玉屋庄兵衛が抱えた最上位の遊女で、コマ絵に描かれているのは撫子です。大柄の有松絞の着物をゆったりと着て、煙草を片手にくつろいだ様子です。

7月



うたがわひろしげ
歌川広重
めいしよえい どりやうけい おお
名所江戸百景 大はしあたけの夕立
大判錦絵 安政4年(1857)

後期印象派の画家、フィンセント・ファン・ゴッホが油絵で模写したことで世界中に知られている作品です。夕立に襲われ、大橋を行く人々は慌てて走りだしたようです。雨でかすむ対岸、黒い雨雲などから、雨が激しく降る様子が伝わってきます。広重の晩年を代表する風景画のシリーズです。

8月



葛飾北斎
ふがくさんしうろっけい か な がわおきなみうら
富嶽三十六景 神奈川沖浪裏
横大判錦絵
天保2～5年(1831～1834)頃

北斎の風景画の代表作であり、傑作とされる作品です。前景では大浪が航行中の押送船に襲いかかり緊迫感が漂いますが、それとは対照的に、画面奥の富士は悠然としています。舶来のプルシャンブルー(ペロ藍)と植物染料の本藍をたくみに使い分け、青色の魅力を発揮した作品です。

9月



葛飾北斎
富嶽三十六景 凱風快晴
横大判錦絵
天保2～5年(1831～1834)頃

シンプルな構図と赤・青・緑のコントラストで、不二と称された日本一の山を見事に表現した作品です。凱風とは南から吹く快い風のことで、南風ともいいます。雲は秋に見える鬚雲を表現したものとされており、爽やかな季節を描いた作品です。同シリーズの「神奈川沖浪裏」とならぶ傑作です。

10月



とうしうさいしやく
東洲斎写楽
にたいめなかしまほえもん なかむらとみけうらう
二代目中山三右衛門と中村富十郎
間判錦絵 寛政6年(1794)

本作は死者の冥福を祈るために作られた追善絵と呼ばれるものです。本来は2枚続きで、2代目市川門之助が描かれた図が左側に並びます。版行当時、すでに冥界入りしていた閻魔大王姿の三右衛門と、武士の妻らしき姿の富十郎が、寛政6年に亡くなった門之助を自分たちの方へ招いています。

11月



とりいきまなが
鳥居清長
ふうぞくがせいのにいし ほかき
風俗東之錦 袴着
大判錦絵 天明3～4年(1783～1784)頃

東とは江戸のことを指し、武家や商家の子女に関する風俗を主な題材としたシリーズです。本作では、5歳になった男の子の成長を願って、初めて袴を着せる袴着の様子が描かれています。これは、髪置、帯解とともに、現在の七五三にあたる行事でした。画面上部には注連縄が描かれ、産土詣の様子であることがわかります。

2018	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
4	普通展示(浮世絵) 安永・天明期の美人画(～4/22)																											※1			
	普通展示(東洋陶磁) 碗の世界(～5/27)																														
	普通展示(陶芸) 陶一生命の讃歌Ⅱ(～11/25)																														
	普通展示(陶芸) 華やぎのかたちー染野夫妻コレクション(～5/27)																														
	特選鑑賞室 歌川豊国 初代松本米三郎(4/1～4/30)																														
	茶室 齋藤敏寿の茶室 熔結(4/1～11/25)																														
第41回山口伝統工芸展(4/12～4/22)																											※2				
※1 普通展示(浮世絵): 明治150年 浮世絵に見る幕末明治 ①幕末の混乱と世相(4/28～5/27)																															
※2 特別展示: サンタフェリー・ダークスコレクション 浮世絵最強列伝～江戸の名品勢ぞろい～(4/28～5/27)																															
5	普通展示(浮世絵) 明治150年 浮世絵に見る幕末明治 ①幕末の混乱と世相(～5/27)																														
	普通展示(東洋陶磁) 碗の世界(～5/27)																														
	普通展示(陶芸) 陶一生命の讃歌Ⅱ(～11/25)																														
	普通展示(陶芸) 華やぎのかたちー染野夫妻コレクション(～5/27)																														
	特選鑑賞室 葛飾北斎 風流無くてなぐせ 遠眼鏡(5/1～5/27)																														
	茶室 齋藤敏寿の茶室 熔結(～11/25)																														
特別展示 サンタフェリー・ダークスコレクション 浮世絵最強列伝～江戸の名品勢ぞろい～(～5/27)																															
★																											GT				
6	普通展示(浮世絵) 明治150年 浮世絵に見る幕末明治 ②明治の内乱(6/5～7/8)																														
	普通展示(東洋陶磁) 白を表現する(6/5～8/19)																														
	普通展示(陶芸) 陶一生命の讃歌Ⅱ(～11/25)																														
	普通展示(陶芸) 現代の茶陶 松下寛コレクション(6/5～9/9)																														
	特選鑑賞室 烏文斎栄之 青楼美人六花仙 静玉屋志津加(6/5～6/30)																														
	茶室 齋藤敏寿の茶室 熔結(～11/25)																														
特別展示 山口県・山東省友好協定締結35周年記念 山東のやきものを楽しむ(6/5～7/16)																															
GT																															
休館日																											★	イベント			
記念講演会																											●	ギャラリー・ツアー			
ギャラリー・トーク																											■	ギャラリー・トーク			

★イベント

- 「サンタフェリー・ダークスコレクション」
浮世絵最強列伝～江戸の名品勢ぞろい～関連イベント
緑茶を知って、美味しく楽しむ。
日時●5月2日[水] 14:00～16:00
講師●吉光虹太氏
(日本茶専門店八十八店主、日本茶インストラクター)
参加費●500円(事前申込制・要観覧券)
定員●16名
会場●陶芸館多目的室
- 広がる「紙」の世界。
日時●5月12日[土] 14:00～16:00
講師●小高良作氏(手漉和紙染色造形作家)
参加費●2,000円(事前申込制・観覧券付)
定員●10名
会場●陶芸館多目的室
- 「山口県・山東省友好協定締結35周年記念 山東のやきものを楽しむ」関連イベント
中国茶と楽しく触れ合う(申込先着順)
日時●6月24日[日]、7月8日[日]
いずれも14:00～15:30
講師●武谷哲宏氏(武谷清風堂)
参加費●1,000円
定員●各回20名(小学生以上対象は保護者同伴)
会場●陶芸館多目的室

- 手びねり作陶体験(申込先着順)
日時●6月30日[土]
①10:00～11:30、②13:30～15:00
講師●渋谷英一氏(陶芸家)
参加費●1,000円
定員●各回16名(小学生以上対象は保護者同伴)
会場●陶芸館多目的室
- タッチ&トーク(申込先着順)
日時●6月16日[土]、7月7日[土]
①10:00～11:00、②14:00～15:00
参加費●2,000円(観覧会をご覧いただけます)
定員●各回10名
会場●講座室・本館2階展示室
- 二胡コンサート(入場無料/当日先着順)
日時●6月23日[土] 14:00～(50分程度)
出演●王丹氏(王丹二胡アカデミー主宰)ほか
定員●100名程度
会場●エントランスロビー
- 記念講演会(聴講無料/当日先着順)
いずれも講座室(座席数84席)にて行います。
「サンタフェリー・ダークスコレクション」
浮世絵最強列伝～江戸の名品勢ぞろい～
日時●4月28日[土] 13:30～15:00
講師●大久保純一氏(国立歴史民俗博物館研究部 教授)
演題●リー・ダークス浮世絵コレクション展のみどころー風景画を中心に

- 「山口県・山東省友好協定締結35周年記念 山東のやきものを楽しむ」
日時●6月10日[日] 13:30～15:00
講師●柿添康平(当館学芸員)
演題●悠久の山東陶磁
 - ギャラリー・ツアー(担当学芸員による特別展示作品解説)
いずれも11:00～12:00
「サンタフェリー・ダークスコレクション」
浮世絵最強列伝～江戸の名品勢ぞろい～
4月29日[日・祝]、5月6日[日]、5月13日[日]
5月20日[日]、5月27日[日]
「山口県・山東省友好協定締結35周年記念 山東のやきものを楽しむ」
6月17日[日]、7月1日[日]、7月15日[日]
 - ギャラリー・トーク(担当学芸員による普通展示作品解説)
いずれも11:00～(30分程度)
4月28日[土] 陶一生命の讃歌Ⅱ
5月12日[土] 華やぎのかたちー染野夫妻コレクション
5月26日[土] 浮世絵に見る幕末明治① 幕末の混乱と世相
6月9日[土] 現代の茶陶 松下寛コレクション
6月23日[土] 浮世絵に見る幕末明治② 明治の内乱
- ※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。
※ギャラリー・ツアー、ギャラリー・トークへのご参加には観覧券が必要です。

交通アクセス

【新山口駅から】

- 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で萩・明倫センター下車、徒歩約5分
- 防長バス(約90分)で萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】萩・石見空港から

- 萩近鉄タクシー(乗合タクシー)約70～80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

- JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分
- JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分
- JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】

- 「中国自動車道」美祿東JCT経由、「小部萩道」給室ICから約20分
- 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い

